

# 政策創造学ニューズレター

(愛称：テルマエ通信)

今月は第3弾目となる4月号をお届けします。4月といえば花見ですね。嬉しいこと

とに法政の市ヶ谷キャンパスの周りには、桜の名所が散在しています。さっそく富士見校舎の前の土手ではブルーシートをひろげて、学生たちがワイワイ・ガヤガヤと花見を楽しんでいる風景が見受けられました。

つつい花見とばかり浮かれてしまいますが、もう一つの4月の大イベントといえば新年度のスタートですよね！ 政策創造研究科にも3期生が入り、ますます活気が出てくることでしょう。というわけで、冒頭から新年度らしい内容をお届けします。まずはじめに、新入生懇親会での新入生への突撃インタビューをお伝えします。続いては、気になるあの研究室。あの研究室ってどうなの？ 気になりませんか？ 研究室紹介の初回となる今回は、岡本研究室をご紹介します。そのほか盛り沢山です。一読の価値あります。■

(堀江慶子)

## 新年度を迎えて

### 入学式が開催

4月3日(土)、日本武道館で2010年入学式が行われました。政策創造研究科は、修士課程49名、博士後期課程9名の合計58名の新入生を迎えました。

入学式では、本学の卒業生で北京パラリンピックの車いすバスケットボール競技に日本代表選手として出場した前田憲造氏からの祝辞や、応援団のパフォーマンスがありました。

入学式終了後は、市ヶ谷キャンパスに移動し、図書館にて図書館ガイダンス、政策創造研究科のある安信ビルにて研究科ガイダンスが行われました。ガイダンスでは、事務からの連絡や履修方法などの説明のほか、先生方からの自己紹介や大学院生活へのアドバイスがあり、皆さん真剣に聞かれました。

ガイダンス終了後は、ボワソナードタワー126階に移動して懇親会が開催されました。黒田先生の司会ではじまり、岡本研究科長の挨拶がありました。その後は、バイキング料理をつまみながら、ワインやビールなどを飲み、先生方と新入生が歓談していました。懇親会の締めには、新入生の若手代表として西岡宏之氏と田中理沙氏の2人がこれから抱負を語り、社会人代表として鈴木良夫さんが挨拶され、和やかに会は終わりました。



ガイダンスの様子

満開の桜の中、期待に胸ふくらませて大学院生活の新しい一歩を踏み出された皆さん、入学おめでとうございます。大学院生活が、多くの出会いと、実り多い体験に満ちることを願っています。(那須田摩美)

### 懇談会での新入生インタビュー

#### 修士課程編

村田崇暢さん(人口・経済・社会・生活政策プログラム)

学部では経済学部にも所属。この研究科を選んだのは、夜の授業がメインであり、時間的に受講がしやすいことが理由だそうです。授業のない昼間の時間は、学部時代に将棋部の仲間と立ち上げた経済問題を議論する研究会に参加したいとのこと。今後研究科では、学部時代に興味を

もった社会保障、特に年金の問題に関して研究を進めていきたいと考えているそうです。「意気込みは？」と聞くと、恥ずかしくないような修士論文を書きたいと答えてくれました。

関祐太さん（都市文化創造プログラム）

学部では英文関係に所属。この研究科へ進学するきっかけとなったのは、学部時代に政策創造研究科で指導されている増淵先生の授業を受講していたことだったそうです。先生の授業を受講したことでサブカルチャーに興味・関心をもつようになり、さらに研究を進めたいと考えたとのことです。研究科では、漫画、アニメによる地域づくりに関して研究を進めていきたいそうです。意気込みは、成績優秀で卒業できるように頑張りたいと話してくれました。

韓国からの留学生で、学部時代は経営経済を学んでいた。この研究科を選ぶきっかけとなったのは、政策創造研究科のカリキュラムが自分の学びたいことにマッチしていたことだったそうです。日本の文化政策に関心があり、研究科では文化政策について研究を進めていきたいとのこと。最終的な目標としては、日本の文化政策の成功事例を韓国に持ち帰りたいと考えているそうです。最後に、楽しむことも忘れず、研究を進めていきたいと話してくれました。

（以上、インタビュー・堀江慶子）

小川元無さん（都市政策プログラム）

学部では地域政策学部所属。この研究科を選んだ理由は、ゼミの先生に進路相談をした際に黒川先生および政策創造研究科のことを紹介されたからとのこと。今後は地方財政が置かれている困難な状況をどう解決するか、その打開策について、特に地方債に注目しながら研究していきたいそうです。意気込みについて尋ねると、2年で修了できるようにがんばります、と答えていました。

高畑好未さん（都市文化創造プログラム）

アメリカの短大でリベラルアーツを学んでいました。この研究科を選んだのは、短大卒でも受け入れてくれたからだそうです。現在は地域活性化における姉妹都市の可能性について興味をもっていますが、今後、授業を受けてみて、テーマを変えられることも考えているとのこと。今後の意気込みについては、楽しく学んでいきたい、と話していました。

田中里沙さん（都市文化創造プログラム）

学部では文学部に所属。知識的な刺激を受けることで自らの人間向上を目指し、大学院進学を決められたとのこと。この研究科を選んだ理由は、紹介を受けたことに加え、幅広い分野のことを学べるからだと思います。食文化に関心があることから、観光銘菓を用いた地域活性化について研究をしていきたいと話していました。今後の意気込みは、ひとを驚かせるようなことをして

いきたい、とのこと。以上、インタビュー・横井友美加）

（以上、インタビュー・横井友美加）

小山浩一さん（雇用政策プログラム）

生命保険会社を中途退職され起業されました。「大学」「中高年」「雇用」の3つのキーワードを入れ、インターネットで検索したところ、本研究科にたどりついたそうです。すでに諏訪ゼミの三浦合宿を終え、緊張の中、大変勉強になり期待が高まりました、と話してくれました。雇用、販売支援について研究していきたいそうです。

鈴木良夫さん（中小・ベンチャー・起業家プログラム）

一年前に金融機関を退職され、これからどういいう人生を歩もうかと考え、以前から知っていた坂本先生に相談し、大学院に進むことにしました。昨年の9月から科目履修生となり、4科目8単位を取得されています。本研究科では、携わってきた金融業務を利用サイドである中小零細企業や地域社会の視点から見つめ直し、地域経済活性化に向けた新たな役割、そのための金融機関の自己変革の方向、行政の中小企業施策の在り方など研究していきたいそうです。

博士後期課程編

安田宣弘さん（地域産業政策プログラム）

西武文理大学サービス経営学部の教授をされています。以前は、旅の販促研究所（JTBのシンクタンク）で所長をされ、

旅行者マーケティングや地域ブランド、まちづくりの研究、コンサルタントをされてきました。今までは実務だけでしたので、学びにきました。フードツーリズムについて研究していきたいですね、と話してくれました。

（以上、インタビュー・那須田摩美）

## プログラム紹介①

### 地域産業政策創造群

#### 地域産業政策プログラム

##### 岡本研究室

いつもやさしい岡本義行先生は、実は地域づくりの天才なんです。そんな先生に、私たちゼミ生は額に汗しながら必死でついていっている、それが岡本ゼミです。

岡本先生の研究テーマは、企業論・産業論・地域経済論です。日本およびイタリアを中心としたヨーロッパの中小企業や地域の活性化に関する研究、衣食住の生活関連産業、ファッション産業など特定分野についての研究が多数あります。また、大学連



岡本義行教授



岡本研究室での小布施視察

携、地方自治体連携、国際シンポジウムなどのコーディネートでも活躍されています。ゼミ活動は、輪読や調査方法の検討や、論文発表の練習、ディスカッションを行っています。昨年度の輪読文献は、ナン・リン「2008」（『ソーシャル・キャピタル』ミネルヴァ書房）、ポール・ミルグロム、ジョン・ロバート「1997」（『組織の経済学』NTT出版）、トーマス・フリードマン「2008」（『フラット化する世界（上）（下）』日本経済新聞出版社）でした。

3月には、ゼミ合宿で長野県の須坂市・小布施町へ行きました。須坂市では、三木市長、井上副市長に直接、お話を伺うとともに、須坂市役所政策推進課の北村氏のご案内で須坂アートパーク、クラシック美術館の見学、そして田中本家博物館では、12代田中宏和ご当主に、直々に案内していただきました。小布施町では、小布施町役場の宮崎氏に同行していただき、市村町長に「小布施のまちづくりの概要について」、小布施町振興公社の岩本氏に「町振興公社の取組について」、小布施堂市村社長に「栗菓子の人気商品の状況について」、小布施町役場の見波氏に「シャトルバス、オープンガーデンの取組について」レクチャーいただき、奇跡のまちづくりの秘訣をお聞きしました。

ゼミのメンバーは活動的で、国内では七尾市・諏訪市・香取市・さいたま市・伊那市・東中野商店街、海外では、イギリスのエジンバラ、フォークランド、プレストン、イタリアのミラノ、トレント、ヴェローナ、パドヴァ、ベネチア・リド島の視察に飛び回っています。  
（那須田摩美）

## コラム 市谷LIFE②靖国神社の桜

逆ルートで境内へ

ポアソナードタワーの裏手の細い道を進むと、靖国通りに突き当たる。向かって左手には靖国神社の石垣が続く。靖国通り沿

いには桜並木が続き、歩道に桜の花びらが積もって、これもまた風情がある。一風変わったことに、この桜並木はぼつぼつと所々に白い桜を咲かせた木が見られる。石垣に沿って少し歩くとシーサーのような像が2体現われる。門を守るように立っている。そこが南門である。南門から、境内へ入ると既に満開となった桜が出迎えてくれる。平日の夕方だが、桜の見物人で境内はあふれかえっていた。参拝に来たわけではないので、厳かな拜殿には背を向けて、桜に見入る。境内の桜を見ると心が洗われたような気分になる。境内の一面には能楽堂があつて、その床にも花びらが漂着していた。この舞台上、今年3月31日から4月2日にかけての3日間に夜桜能が演能された。また、この時期は日中、日本舞踊、詩



靖国神社の桜

吟、浪曲などが能楽堂で奉納されている。さて、人の流れに乗って、大きな正面の神門を出る。すると逆走していたことに気づかされる。神門を出てすぐ右手に、お清めするための水場があるのだ。この逆走ルートは法政ならではの参拝ルートであろう。穴場の居酒屋

大鳥居を抜け、横断歩道を渡ったところにまで靖国の敷地は続く。境内の静けさとはうって変わって、何やらにぎわっている。まだ、夕方の5時をも回っていないというのに、サラリーマンやOLとおぼしき人たちが既にいっぱいやってきた。そこには、台湾の夜市を彷彿させる風景が広がっていた。無数の屋台が軒を連ね、酒につまみ、主食からデザートまで何でもそろろう。枝まめ、イカ焼き、アユの塩焼き、にこみ、串



桜の下での花見酒

焼き、おでん、焼きそば、広島焼き、たこ焼きにクレープなどなど。桜の下の穴場の居酒屋がそこにあつた。未体験の方はぜひ来年、訪れてみては。 (堀江慶子)

## 新刊紹介

『日本でいちばん大切にしたい会社2』

坂本光司著、あさ出版、2010年1月

本書は、坂本光司教授が、2年前の2008年4月に上梓された『日本でいちばん大切にしたい会社』の続編にあたります。前著は企業経営と使命について書かれた第1部と、実際にその企業経営と使命を果たすべく懸命な努力を続けている中堅・中小企業5社を具体的に紹介した第2部から構成されています。

今回の続編は、第1部に相当する箇所は主にプロローグに集約されており、紙面の大部分を前回の第2部に相当する具体的な中堅・中小企業の紹介に割かれています。そのため、前回と比較して紹介企業数が増え、今回は以下の8社を紹介しています。

- ・株式会社富士メカネ (北海道)
- ・医療法人鉄蕉会亀田総合病院 (千葉県)
- ・株式会社埼玉種畜牧場「サイボクハム」 (埼玉県)
- ・株式会社アールエフ (長野県)
- ・株式会社樹研工業 (愛知県)
- ・未来工業株式会社 (岐阜県)

・ ネットトヨタ南国株式会社 (高知県)

・ 株式会社沖縄教育出版 (沖縄県)

坂本先生が様々なところで伝えようとしている本当の企業経営とは、「5人に対する使命と責任を果たすための活動」のことであると定義しており、その使命と責任とは「幸福の追求」と「幸福の実現」であると説いています。

そしてその5人とは「社員とその家族」「社外社員(下請け・協力会社の社員)」とその家族」「現在顧客と未来顧客」「地域住民、とりわけ障害者や高齢者」「株主・出資者・関係機関」を承めています。

そして、この「五人の、永久の幸福のために、全社一丸となつてがんばる誠実な経営をしている会社」を、坂本先生がこれまで訪問してきた6,300社以上の企業から抽出しました。ここで紹介されているすべての企業が、それぞれ独自の方法によって、この「五人」のために経営を続けています。

読み進めるにつれて、おそらく考えもつかなかつた経営者の想いや社員・下請け第一の社内制度などに驚き、そして心を揺さぶられることになるでしょう。

とある友人は、これを読んだあとに「これはすべて実在する会社なの?」と質問してきました。会社とは何か、そしてその会社で働くということは何かを考えるすべての人たちに読んで欲しい一冊です。 (高澤暢)

## 新着情報

シンポジウム・研究会等

5月29日(土)

平成22年度第1回

人口オーナス下の地域研究会

「都市部における人口オーナス」

報告者―谷隆徳氏(日経新聞論説委員)

時間―18時45分〜20時30分

場所―法政大学市ヶ谷キャンパス

安信ビル7階A704教室

参加費無料・事前申込不要

問い合わせ―堀江慶子

poponus@ndseason@gmail.com

## 募集

ジュニア・プロフェッショナル・フェロー

ジュニア・プロフェッショナル・フェロー

とは、国連大学が独自に設けているインターンシップ・プログラムの名称です。通常、国連におけるインターンシップの期間は2ヶ月程度が一般的なのに対し、こちらはインターンシップ・プログラムの期間は6ヶ月となっております。募集は、年に2回行っており、夏季募集(8月〜1月)と冬季募集(2月〜7月)の2つの機会が設けてあります。この度は、夏季募集のお知らせです。

期間―2010年8月1日(土)

2011年1月31日(月)

政策創造学ニュースレター第4号

編集・発行

法政大学大学院政策創造研究科内

政策創造学ニュースレター編集委員会

(浅田眞澄美、井嶋充憲、鈴木美伸、那須田摩美、堀江慶子、横井友美加)

発行―2010年4月30日

発行―2010年4月30日

発行―2010年4月30日

発行―2010年4月30日

応募条件―学士課程修了もしくは同等の資格他

場所―国連大学ニューヨーク国連本部

締切―5月15日(土)

## 編集後記

新人生のインタビューや靖国神社の桜など、フレッシュな内容をお届けしました。ユーズレター4号、いかがでしたでしょうか? 見事に咲き誇っていた桜の花も散つてしまい、今は美しい新緑の季節を迎えようとしています。政策創造研究科も創設3年目を迎え、新芽から若葉へと成長してまいりました。そこで、来号では我が研究科を引っ張ってくださっている研究科長にインタビューを行い、これまでの苦労話や今後の展望について語っていただく予定です。どうぞお楽しみに! (横井友美加)